

全国万引犯罪防止機構

高齢者の万引増加

防止へ取り組む

特定非営利活動法人・全国万引犯罪防止機構（東京都新宿区、河上和雄理事長）は6月18日、千代田区内で通常総会を行った。

竹花豊副理事長は開会の挨拶として「万引きは対策上、多角的な視点を求められる社会的現象。8年前に当機構が設立された当時は



竹花副理事長

少年犯罪が主要なテーマだったが、最近では高齢者の万引きが増加傾向にある。組織的な犯罪も多発しており、盗んだ商品のさばき方に関して①ネットによる流通②国際間の発送——以上2点が容易になったことが犯罪を増長させている。犯罪認知件数が減少する一方で万引犯罪は増加傾向にある。犯罪の約1割が万引きだ。業界・店舗毎に対策に格差があり、また業界最高幹部に認識が十分に行き渡っていない状況。さらに店内捕捉について共通した考え

方が確立されていない、画像認識に関する防犯資機材についての議論の必要性など、問題は多々ある」と述べ、犯罪防止の取り組みを推進する意向を示す一方、課題となっている財政面での支援を要請した。

議案審議に入り、平成25年度の事業報告・決算報告と平成26年度の事業計画・予算報告が行われ、「盗品のネット処分に関する実態調査」に基づいてネット業者に対し要請を行う提言が承認された。

役員の変動は次の通り（敬称略）。

【理事】戸田秀雄（日本万引防止システム協会会長）、井出陽一郎（日本百貨店協会理事）、山下睦（自動

車用品小売業協会事務局長）【顧問】山村秀彦（前日本万引防止システム協会会長）

総会に続く第2部として、瀧川哲夫（北海道大学名誉教授）、加藤和裕（万防機構調査研究委員長）、佐藤聖（同機構理事）の3氏による万引の実態に関する調査報告が行われた。

第3部では、瀬戸睦氏（群馬県警刑事部捜査第三課課長補佐）が「集団窃盗に関する事例」を発表。佐伯和則（群馬県警生活安全企画課長）、木田真人（鳥根県警犯罪抑止対策係長）、岡田茂生（ウエルシア関東保安渉外担当部長）の3氏によるパネルディスカッションを行った。【瀬戸雅彦】